

## **分野 1 : 活力と魅力にあふれる街づくり**

### **< 1-1 農漁業の振興 >**

#### **□ 農家所得を増やす支援策**

- ・ 市内の農家が、生産する野菜やくだものを「豊橋ブランド」として東南アジアを中心に販売できるよう支援する。
- ・ 株式会社サイエンス・クリエイトや豊橋技術科学大学、農業関連企業の共同体で IGH（イノベーターティブグリーンハウス）プロジェクトでトマトの収穫量を効率的に増やす取組みをしている。ここでの実績を事業化につなげていくことが必要である。
- ・ 今後は、国内のマーケットが縮小する傾向にあるため、農家の収益をあげるために 6 次産業化を進める取組みを考えるべきである。
- ・ 市内の耕作放棄地など対応の解決の糸口として、収穫が比較的楽にできる作物（例えばハーブ茶葉など）を生産したらどうか。

#### **□ 農産物の輸出**

- ・ 市内の農家が、生産する野菜やくだものを「豊橋ブランド」として東南アジアを中心に販売できるよう支援する。
- ・ 市の友好都市である中国の南通市では、日系の販売店がないと聞いている。行政ができるのは販路開拓であり、地元産品を輸出できる仕組みを進めて欲しい。
- ・ 農産物の輸出でネックになるのは輸出のノウハウである。海外では日本の果物などに需要があり、輸送に関する課題が解決できれば豊橋市の強みになる。

#### **□ 地産地消の推進**

- ・ やる気のある若者が施設園芸に参入する流れがある。そのような生産者を支える仕組みとして、市内にある直売所などで消費者との交流を深め、市民に地元の農業を支える気持ちが芽生えるようになるとうい。
- ・ 駅前の飲食店や物販店などで、豊橋市で生産された農産物を販売及び料理する店に認定証を出す仕組みがあるとよい。地元産の農産物を提供する店は結構出ている。
- ・ 消費者が価格だけでなく、地元産の野菜であることや農家の思いなど農産物の背後にある物語を知った上で買うようになることが、地産地消を進めるためには必要である。そのためには、地元の農産物について知ってもらうための教育が必要である。

### **< 1-2 工業の振興 >**

#### **□ ものづくり人材の育成**

- ・ ものづくりが盛んなこの地域にいる実業高校の若者や豊橋技術科学大学に通う専門知識を持った人たちが技術を磨き、地域経済に活かしてもらえるよう人材の育成が必要である。
- ・ ドイツのマイスター制度のように高い技術力を持った人を評価する制度があると、本地域でものづくりが持続的に発展すると思う。

### < 1-3 商業・サービス業の振興 >

#### □ まちなか活性化の取り組み

- ・ 豊橋駅前には、飲食店の集積が見られ、また公共交通が整備されているエリアである。飲食店が駅前により集積できるよう、飲食店の進出に対して税制面で支援できるといい。
- ・ 芸術劇場プラット周辺一帯は、カルチャーの集積地となっている。飲食店も増えてきていることから、より魅力あるエリアにするために、まちづくりの方向性がしっかり示すことがよい。
- ・ 「豊橋まちなか歩行者天国」の一部を市内 3 大学の大学生の有志に任せて、自由に運営してもらえると面白くなるのではないかと。

### < 1-4 観光・イベント・コンベンションの充実 >

#### □ 豊橋市に立ち寄る仕掛けづくり

- ・ メルセデス・ベンツ日本は豊橋新車整備センターでの納車を実施した。全国初となる取り組みで整備センターで納車ができる取組みを増やすことで、全国から納車のために来豊してもらい、この地域でお金を使ってもらえる仕掛けがあるといい。
- ・ 国道 23 号バイパス（名豊道路）が開通すると、豊橋は通過点になる可能性がある。豊橋の観光の魅力づくりを実施することや、東三河広域観光協議会など連携して、本市の地域資源を市外に PR することなど、豊橋に立ち寄ってもらうように対策の検討が必要だろう。
- ・ 「めぐりパーク食彩村」は、国道 23 号バイパス（名豊道路）の七根インターチェンジができてから売上が上がったようだ。地域資源の魅力発信の場になりうる直売所などの施設をインターチェンジ周辺に点在させれば立ち寄る人が増えるだろう。

#### □ 訪日外国人旅行者の獲得

- ・ 外国人に行ってみたいと思わせるような観光地づくりが必要である。例えば、上海からハウステンボスに観光船で誘客しているように、中部国際空港から「ワンピース」の海賊船にのって「ラグナシア」に入港できるようにするなどの演出があったら面白い。
- ・ JR の鉄道・路線バスなど期間内であれば乗り降りが自由にでき、外国人に人気のある「ジャパンレールパス」は、のぞみ号を利用することができない。首都圏や京都などと比べると宿泊料金が安いことから、訪日外国人が宿泊場所として豊橋市に来豊する可能性がある。
- ・ 外国人観光客はホテルを滞在拠点として周遊する可能性は高い。ホテル周辺の店舗で免税措置できるようにするとよい。

#### □ 豊橋市の魅力の情報発信

- ・ 市のイベント参加者数を増やすために、Twitter などのソーシャルネットワークを活用した情報発信をするといい。
- ・ 豊橋市公会堂はコスプレ愛好家の聖地になっており、よく写真撮影が行われていることから、サブ・カルチャーの発信源になる可能性がある。2 年前から、豊橋まちなか歩行者天国でポップカルチャーのイベントを開催しており、コスプレ愛好家やポップカルチャー愛好家が集まるなど、盛り上がりを見せている。

### 資料3：市民会議分科会意見まとめ

- ・ 三河港に集積している自動車関連企業の工場見学など、大人向けの産業観光ツアーをすると面白い。また見学対象ををまちなかや商店街に設定することで違った見え方がするのではないか。マッチングを行政がやってはどうか。

#### □食文化の発掘

- ・ いわし玉や味噌ベースの食べ物など、この地域特有の食べ物を発掘しPRをする。

#### □By 豊橋運動

- ・ 工業製品や農産物も豊橋で生産されたものであると表示することで、地元製品や農産物を積極的に購入するきっかけづくりをすることが必要である。

#### □Wi-Fi 環境の整備

- ・ 日本は、海外と比較して Wi-Fi 環境があまり整備されていない。豊橋市で整備されれば訪日旅行者を集客する環境が整う。訪日旅行者に豊橋を観光する魅力が伝われば、ジャパンレールパスを利用した外国人が、豊橋駅で下車するようになる可能性がある。
- ・ 市内に多くの Wi-Fi 環境が欲しい。公園に Wi-Fi スポットが多くあるが、公共交通機関の駅やバス停に整備されてないことから、観光地に行った帰りなどにすぐに発信できるようになるとよい。

#### □エコツーリズムやグリーンツーリズムの推進

- ・ 豊橋市は緑豊かで、海や山、川などの自然環境に恵まれている。このような条件のもとで、都会からエコツーリズムで交流人口を増やすことができないだろうか。
- ・ 浜松のホテルが、東京からウィンドサーフィンをしたい人たちを呼んできてツアーを組んでいた。例えば、サーフィンやウミガメ観測などのアクティビティをしたのちに、まちなかで飲み会を開くなどいろいろと考えられるのではないか。

#### □トヨッキー関連のお土産の充実

- ・ 新幹線の駅には、他都市のお土産が充実しており、許せない。地域全体でトヨッキーのお土産を充実する取組みができないか。

#### □豊橋まつりの運営

- ・ 豊橋まつりの企画は市民が中心になってしたらどうか。中にはまつりの企画運営が得意な地区とそうでない地区が出てくるが、そのときは地区同士で連携してまつりを企画運営できるようになるといい。

#### □530運動をシティプロモーションに

- ・ 市が先進的に取組んだ530運動をシティプロモーションとして外部に発信することが必要ではないか。そうすることで市内での530運動への機運も高まる。

□のんほいパークの魅力向上

- ・ 子どもに人気のあるナイトガーデンを期間延長し、多くの人に体験してもらうようにしたらどうか。
- ・ 動物園にBBQ場があるとよい。
- ・ のんほいパークは広く歩くのが大変である。スピードの出ない自転車などがあると楽に回れると思う。
- ・ 園内であまりお金を使わないので、園内で消費を増やす仕組みを考える必要がある。

□豊橋市の農産品に関する魅力

- ・ 郊外にある野菜の直売所のようなものを中心市街地に展開すべき。豊橋の魅力について考えれば、新鮮な農産物を食べて生活しているというのは、目に見えないけれどもここに住むことの魅力ではないか。
- ・ 人とモノについて、中心地と郊外で一方通行にならない仕組みが大切。中心と郊外、田園地域とのつながりがあればいい。
- ・ 豊橋は駅弁の種類が寂しいと感じる。もっと商品開発があってもいい。
- ・ マルシェで野菜を出品する際に、野菜だけ出しても客は買わない。どのように調理すればおいしいかというレシピを出すと、興味を持って買っていく人はいる。そのような提案が必要である。

<1-5 雇用の安定・勤労者福祉の充実>

□雇用状況について

- ・ 本地域は、他地域より比較的雇用には恵まれている地域である。しかし、企業が欲しい人材と働きたい職場のマッチングができていないところも見受けられる。

□インターンシップの活用

- ・ 大学と企業との間でインターンシップが取組まれているが、インターンシップの期間を長くし、企業は企業風土や特性を学生に知ってもらうこと、また学生は自分の進路とあっているかすり合わせができようインターンシップのあり方を考えることが必要。

□ものづくり人材の育成（再掲）

<1-6 三河港の振興>

□高速道路へのアクセス強化

- ・ 三河港と高速道路を結ぶ道路の整備を早く進めなければ、明海地区をはじめとした三河港湾エリアに集積する企業にとって、豊橋市に立地する魅力が乏しくなり工場がするきっかけを与えかねない。三河港から高速道路へのアクセスを強化する必要がある。

□三河港のにぎわいの創出

- ・ 三河港は、輸出入で日本を代表する港湾であるが、知名度が低いと感じる。横浜港や神戸港のように港湾を整備して多くの人に立ち寄ってもらう港のにぎわいづくりが必要ではないか。

<1-7 近隣市町村との結びつきの強化>

□林業の支援

- ・ 奥三河の森林資源は保全することは、東三河下流域にとって水源地を守ることにつながる。奥三河の森林資源を守るため、林業への支援することが重要である。

□上下流交流の促進

- ・ 東三河地域は豊川をベースに上下流が結びついているが、上下流の交流促進を図るために「流域アースディ」のようなイベントを開き、住民レベルで上流域のことを知ってもらう仕組みが必要だと考える。

□鳥獣害被害の軽減

- ・ 周辺市町村と連携して、農作物の鳥獣害被害を軽減する取り組みは必要である。

## **分野2：健やかに暮らせるまちづくり**

### **<2-1 健康づくりの推進>**

#### **□5歳児健診の実施**

- ・ 5歳児健診は、発達障がいなどの障がいの有無を早期発見するとともに、子どもへの虐待を発見する機会とするために実施してほしい。
- ・ 早期に、障がいの有無が発見できれば、早期の療育ができる。
- ・ また健診の際に、服装の汚れやけなどが見受けられる場合は、家庭環境の状況把握に努めることで、子どもを含む虐待などへの早めに対処できるようになる。
- ・ 健診を増やすと保健所だけでは対処できない可能性もあるので、その際には開業医や小児科を巻き込んで広く対応できるようにしたほうがよい。

### **<2-2 医療の充実>**

#### **□利用しやすい医療体制**

- ・ 市民病院や休日夜間急病診療所は市の西側にあり、東側の住民にとっては遠いのが難点である。東側にある豊橋医療センターで対応してもらえると利便性が高まることが望まれる。

### **<2-3 地域福祉の充実>**

#### **□豊橋の未来を支える団塊の世代**

- ・ 団塊の世代の人たちは、これまで日本や豊橋市の発展に大きく寄与してきた。これまで培った経験を地域活動や子育て支援などに活かしてもらえないだろうか。団塊世代はこれから地域の宝となりうる。
- ・ 地域のために働きたい団塊の世代の人たちの人材バンクを作り、地域の要望などに応じて対応するとよい。そうするための「団塊の世代課」をつくると面白いのではないか。
- ・ 地域活動や子育てサポートした人々には、地域独自のポイントを付与し、公共施設の利用料などをポイントで支払うことができるなど、何らかの報酬を出すなどよい。

#### **□ICTを利用した地域情報共有基盤の形成**

- ・ 在宅医療・福祉統合型支援ネットワークシステム「東三河ほいっぷネットワーク」をベースに、医療や福祉従事者などの情報共有基盤である「電子@連絡帳」と家族や本人が直接書き込み情報を共有する「電子@支援手帳」の取組みを推し進めて欲しい。
- ・ 「電子@支援手帳」は使い方によっては、まちの情報共有基盤になりうる。例えば、地域でサポートが必要な人を見守る情報を共有する等が考えられる。子どもや青年の見守りを含めて1つのシステムでできるとよい。

### □学校の空き教室（余裕教室）の活用と仕組みづくり

- ・ 学校にある空き教室を、学校教育施設だけではなく、福祉施設や社会教育施設などの機能を持たせ、地域にいる人たちが世代を越えて集える拠点施設としたらどうか。空き教室の他の用途への転用は他都市で事例があることからやれないことはないと思う。
- ・ 学校施設を利用しようとする、学校の先生に負担が増えることが考えられる。本来、学校の先生は子どもたちに対して授業をすることが仕事であることから、本来の業務に集中させることが必要である。学校や先生に何でも要望を言えばいいのではない。
- ・ 空き教室の活用を進めるためには、地域住民みんなで汗をかき参画していくことが必要だと思う。地域のコミュニティの核としての学校としてすることが必要である。
- ・ 学校と地域の関係をしっかりつくる必要がある。児童数の減少や学校が荒れているなどの問題に対し、学校と地域が情報を共有して課題解決に向けて取り組むことが重要である。そういう意味では、今のPTAの仕組みには問題があると感じる。
- ・ 多様な人々が関わり合う仕組みづくりを行政が主体となって進める欲しい。
- ・ 学校を建設してからある程度時間が経過しており、これから学校の改修などが始まるタイミングだと思う。このタイミングで、児童クラブや外国人教室、デイサービスなどを含めた複合的な機能を追加して欲しい。課題は多いだろうが、みんなで一緒に考えたい。
- ・ 学校施設を民間事業者が包括的に管理をし、学校側は必要な分を借りるようになるとうい。そうすれば、民間事業者が有効に運用し収益を上げることができるようになる。
- ・ 学校の空き教室に関するモデル例をつくった時、事業を動かすメンバーを最初のうちは市民会議の委員が担うべきだと思う。
- ・ 学校を開放すると、変質者が侵入してくるという懸念があると思う。しかし、地域のみんが誰でも声を掛け合うような地域では、変質者は入りにくくなると思う。学校を開放することで逆に安全になるのではないか。
- ・ 空き教室をつかって、放課後に優れた能力をもった人のワークショップなどしたら面白い。

### □豊橋市版地域包括支援センターの設置

- ・ 豊橋市は、地域包括支援センターを介護保険施設のみとせず、子どもや障がい者など多様な人を地域が見守る「豊橋市版地域包括支援センター」を早く取り組むべきではないか。そのために、市役所に「地域包括ケア課」をつくり、地域に住む人を支えていくプランを実行できるような市役所の課の編成が必要だと考える。厚生労働省は将来的に子どもの見守りを含めた地域包括ケアを考えていることから、豊橋市が先進事例を取り組むことで柔軟な取組みを盛り込めるのではないか。

### □家庭の孤立への対応

- ・ 相談相手がない核家族が増えている。そのような家庭では日頃の悩みについて、まわりに相談する相手がおらず、虐待につながったケースがあった。
- ・ アパートやマンションではとくに家庭の孤立が進みやすいことから、孤立が進まないようアプローチが必要である。

## 資料3：市民会議分科会意見まとめ

- ・ 家庭が孤立していると、災害時要援護者名簿にも記載されない。孤立を防ぐ取組みとして、子どもの健康診断などに焦点を当て状況把握に努めることがいいのではないか。

### <2-4 子育て支援・児童福祉の充実>

#### □子育て世代のサポート

- ・ 子育ては大変である分、何倍もの感動がある。子どもたちや結婚適齢期の人たちに子育てを楽しんでいる姿を見せることで、将来結婚や出産等につながるのではないか。
- ・ これからたくさん子どもを産んでもらうために、もう1人産んだときには、子どもの世話について市役所は補助金を出し、ベビーシッターには団塊の世代の人に入ってもらおうなどしたらどうか。

#### □結婚支援の取組み

- ・ 市内で結婚を希望する人へのサポートとして、市が公認インターネット上でマッチングを図ったらどうか。

#### □子ども関連予算は未来への投資

- ・ 子どもの6人に1人は相対的貧困の状態にあり、母子家庭の半分は貧困状態であるといわれる。OECD（経済協力開発機構）の国々の中で、GDPに占める教育費が一番低いのは日本である。未来の豊橋を担う子どもたちが健やかに生活できるよう、未来の投資という意味で、各世代の中でも特に子どもの教育などにお金をかけてほしい。

#### □家庭の孤立への対応（再掲）

### <2-5 高齢者福祉・介護保険の充実>

#### □リバースモーゲージ（不動産担保型の老後資金）の導入

- ・ 高齢者が保有する自宅や土地などの不動産を担保に、不動産の価値に応じた支援を行うリバースモーゲージは銀行やNPOなどが既に取り組んでいる。高齢者にとっては、継続した支援を受けることができ、老後の安心につながる。行政が基金などをつくり取り組んでみてはどうか。

### <2-6 障害者（児）福祉の充実>

#### □障がい者の自立

- ・ 前回の提言書では、障がい者は何かしてもらおうという立場になっている。障がい者の自立を考えると、障がい者自身がどのように社会に関わっていくかという視点での政策立案が必要。

#### □5歳児健診の実施（再掲）



< 2 - 7 医療機会の確保 >

< 2 - 8 生活自立の支援 >

□家庭の孤立への対応（再掲）

## 分野3：心豊かな人を育てるまちづくり

### <3-1 学校教育の推進>

#### □子どものコーディネータ制度

- ・ 子どもたちに遊ぶ場を設けても、どう遊ぶかコーディネータが必要な場合がある。そのために、地域にいる大人たちが、子どもの遊びをコーディネータする制度のような仕組みがあるとよい。
- ・ 放課後教室ではコーディネータなどスタッフが不足していると聞いた。地域には元気な高齢者がたくさんいるので、入ってもらえるとよい。
- ・ コーディネータの育成は行政が担い、実際の取組みはコーディネータに任せるべきである。

#### □子どもへの学習支援制度

- ・ 大学生のボランティアや団塊の世代の人たちが子どもの学習支援に関わるのがよい。

#### □学校の空き教室の活用と仕組みづくり（再掲）

#### □中学生と子どもたちの交流促進

- ・ 子ども同士で学ぶ機会を増やすために、放課後児童クラブに中学生も参加できるようにすればいいと思う。
- ・ 中学生に親になることについて学ぶ機会設けるために、乳幼児と関わり持たせたほうがよい。そうした経験を通して乳幼児を感じてもらい、また自分が親になることについて考えるきっかけ作りにもなる。

#### □集団生活による教育

- ・ 子どもが社会の中で生きていくためには、早期に集団生活を経験させることが必要である。集団生活にはストレスもいっぱいあるが、経験を積み、ストレスを乗り越えていく楽しさを感じるようになることが子どもの成長につながる。

#### □外遊びを通じた学びの推進

- ・ 昔の子どもは、外遊びを通して自分で痛みを覚えながら学習していったものである。外で遊ばなくなったことから、子どもたちの体力が落ちている。子どもは家にいれば育つというものではない。

#### □高校でのインターンシップ導入の促進

- ・ 中学生は2年生の時に職場体験がある。高校では、商業高校や工業高校の学生がインターンシップに参加しているようだ。普通科の学生でもやったらどうか。

### < 3 - 2 生涯学習の推進 >

#### □選挙権をもつ 18 歳以上の若者への教育活動

- ・ 法改正により、今後 18 歳以上の若者が参政権を持つことになる。若い人たちに参政するという意識を育て、まちづくりにへの意識を高めることが必要だ

### < 3 - 3 生涯スポーツの推進 >

#### □スポーツの推進

- ・ 市内にあるサッカーグラウンドやスケート場などのスポーツ施設を整備し、子どもがやりたいことを応援できるようにすべき。
- ・ 学校の部活動は学校の先生の負担になっていないだろうか。例えば地域でスポーツができる人が教えたらどうか。

#### □優れた能力を持った人からの教育

- ・ スポーツや芸術分野などで優れた能力を持った人は市内に多くいる。人材バンクとして登録してもらい、ホンモノ体験として子どもたちに教育してもらおうような仕組みがあったらよい。

### < 3 - 4 子ども・若者の健全育成 >

#### □子どものインターネットトラブル防止

- ・ 子どもがインターネットトラブルに巻き込まれるということが昨今いろいろな所で問題になっていることから対策が必要である。
- ・ 子どものインターネットへの対応として親へのどのように啓発するが課題だと思う。
- ・ インターネット以外の外遊びなどの面白さを知った上で、子どもがインターネット利用を選択するのであればいい。子どもには多様な遊びを経験させるのがよい。
- ・ 大人が子どもに対して規制をかけることはあると思う。それと同時に、子どもから大人に対する規制も親子間でかければいい。子どもとしても言わせて欲しいことがあるはずである。

### < 3 - 5 芸術文化の振興 >

#### □優れた能力を持った人からの教育（再掲）

### < 3 - 6 科学教育の振興 >

#### □学校への自然科学分野の講座

- ・ 自然科学分野の詳しい人たちのチームをつくり、学校出前講座を実施したらどうか。

### < 3 - 7 文化財の保護と歴史の継承 >

#### □歴史的建造物の保存

- ・ 公会堂や愛知大学公館など市内にある歴史的建造物を景観形成の意味で保存してほしい。

### < 3 - 8 市民協働の推進 >

#### □市民協働のあり方

- ・ 行政は市民団体などに助成金を提供するだけでなく、一緒に汗をかいて協力して動ける仕組みが欲しい。今のやり方は、口とお金を出すだけではないか。
- ・ 市内のボランティアに関する窓口が、社会福祉協議会やオレンジプラザなどに分散化している。どこかに集約することが必要である。

#### □自治会の組織強化

- ・ コミュニティを再生する意味において、自治会の組織を強化する必要がある。
- ・ 高齢者が増えていく中で、定年退職した人々が自治会などで働いてもらう仕組みをつくる。
- ・ 地域住民の中で、顔が見える関係づくりができていない。コミュニティのあり方を検討する必要がある。

### < 3 - 9 国際化・多文化共生の推進 >

#### □孤立した外国人家族への対応

- ・ 外国人の家庭が地域から孤立し精神的な問題を抱えるケースが見受けられる。家庭が地域から孤立しないように、言葉の壁を乗り越えるための支援が必要である。
- ・ さまざまな団体が協力してネットワークをつくり、外国人で困っている人をサポートしていくことが必要である。

### < 3 - 10 男女共同参画の推進 >

#### □女性の負担軽減に向けて

- ・ 今の社会で心配なことは、結婚、仕事、出産、育児、介護など、日本の社会が女性にあらゆること求め過ぎていることである。
- ・ もう少し男性の意識改革を進めてほしい。働き方も含めて、家庭の中での男性の役割というのを個人が考えることが必要である。

#### □附属機関等への女性の委員登用

- ・ 附属機関等への女性の登用数が少ない。女性委員の数について、最低限の基準を設けるべき。

## 分野 4 : 環境を大切にすまちづくり

### < 4 - 1 温暖化防止対策の推進 >

#### □再生可能エネルギーの普及

- ・ 国の再生可能エネルギーの固定価格買取制度により、太陽光発電の設置量が増えている。豊橋市は風が強い地域なので風力発電を増やしてもいい。洋上風力発電の設置は国内事例が少ないことから三河湾に設置することで、環境への取組みのシンボルになると思う。

### < 4 - 2 自然環境の保全 >

#### □環境問題への意識づくり

- ・ 環境に関する問題は、ごみの分別などの市民への意識啓発とごみの回収方法などの事業の進め方を分けて取組むことが必要。
- ・ 豊橋市の環境に対する取組みは、他市と比べてどの水準にあるのかということがデータとしてあると比較しやすい。以前、豊橋市は 1 人当たり都市公園面積が日本一だった記憶がある。都市公園面積が広いことを市民に知ってもらえれば、「我が町は非常に緑が豊かなので、この緑を大切にしよう」というムーブメントが生み出されるのではないかと思う。
- ・ ごみを拾うと勲章などが貰えるなど、インセンティブを与えるといい。

### < 4 - 3 水と緑の環境づくり >

#### □自然との共生

- ・ 広小路通りの街路樹はムクドリ対策で枝が沢山切られてしまい、木がない方がいい樹形になっている。普段、まちなかしか歩いていない人には、豊橋市には緑がないと思われる。
- ・ ムクドリ対策で木に網をかけているが、網にハトが引っ掛かり死んでいるなど見栄えが悪くなっている。共存がうまくできたらいい。

#### □緑化の推進

- ・ 緑の少ない地域に緑化を推進して欲しい。
- ・ 夏の暑さ対策のために、中高木を植樹し木陰を作ることが必要。
- ・ 古くなった街路樹は災害時に倒れると救助活動の邪魔になる可能性があるため、診断が必要。

### < 4 - 4 大気・水環境の保全 >

#### □環境のシンボルづくり

- ・ 豊橋市の自然を象徴するシンボリックなものを発信し、それを維持発展するための仕組みづくりを行なうことによって、市民の環境意識をさらに高めていく必要がある。例えば表浜のアカウミガメ、内湾のアサリ、内陸の葦毛湿原、「530運動」などのイメージを活用して発信を行えるとよい。

□微小粒子状物質（PM2.5）などの状況把握に対する取組み

- ・ PM2.5などの大気中に浮遊した場合は、情報が入るようにお願いしたい。

<4-5 廃棄物対策の推進>

□環境政策の広域展開

- ・ 豊橋市では、生ごみによるバイオマス発電事業にとりかかることや「ビンカンボックス」の設置など他市にはない取組みを実施している。いろいろな工夫してやっていると思うので、ぜひこの取組みを、例えば東三河地域へ広域に広げられるといい。

□530運動の推進

- ・ 「530運動」発祥地であるにもかかわらず、まちなかにはごみがあったりする。徹底的にごみのないまちづくりを進めてはどうか。環境に悪いイメージのあった水俣市は、日本一分別が進んだまちとして注目されている。
- ・ 学校などで「530運動」について学習するが、その時だけで終わっている。ごみを捨てないようにする意識啓発など継続的にできるようになるとよい。

□ごみ処理の実施

- ・ 豊橋市はごみを出す場所や機会に恵まれている。そのため、ごみの排出量が多くなっていると思われるので、ごみ処理を有料にしてはどうだろうか。
- ・ 豊橋市は、県や他都市と比べごみの量が多いことから、市民レベルでできることとして、生ごみを出す際に水分を切ってから出すことや、資源ごみの分別などに取り組み、ごみ減量に取り組んでいくことが必要である。
- ・ 豊橋市ではごみ袋の指定されていない。これは全国的に見て非常に珍しいと思う。
- ・ ごみ袋の年間使用量分があらかじめ配布され、さらに必要な人には有料で販売するなど、たくさんごみを出す人からお金をもらい、ごみの量が少ない人からは負担を求めない考え方を検討するといいい。
- ・ 資源ごみの分別が徹底しておらず、段ボールや新聞紙が一般ごみに混ざっているケースが多くあるので、ごみの分別を徹底する必要がある。
- ・ 郊外はリサイクルステーションが遠いことから不便である。その対応としてガソリンスタンドやコンビニなどを間借りし資源ごみを回収できるようにするとよい。

□食品残さの資源循環利用

- ・ 各家庭から出されたごみを堆肥にして農家に売り、その農家の作った農産物を地元の市民が食べる循環の仕組みを作れば、環境保全や郷土愛につながるのではないだろうか。
- ・ 発酵肥料は成分保証等がなされないと安易に農地に散布することが難しいことから、実施に向けては慎重な検討が必要である。
- ・ 豊川浄化センターで行われている生ごみによるバイオマス発電の実証実験の技術は横展開して活用するとよい。

□ビンカンボックスについて

- ・ ビンとアルミカン、スチールカンの分別をきちんと行うと価値が出てくるため、回収の際にうまく分別できようしたらよい。
- ・ ビンやカンを回収業者に売って、ビンカンボックスの修理や更新する費用として使えることができないか。
- ・ ボックスのなかに可燃ごみなど他のごみが混ざると分別に費用がかかるため、ルールを守るように啓蒙する必要がある。ビンカンボックスはいい仕組みと思うため続けてほしい。

□環境美化活動の実施方法

- ・ 市で実施する花の植替え作業は日時が予め決められているため、仕事のある人は調整が難しく参加できないため、近所で問題になっている。
- ・ 広報紙が配布されない集合住宅などでは情報が入りにくい。行動する意思がある人に情報が入らないことだけは気をつけるべきで、みんなに知れ渡る方法ができたらいい。

□ごみの不法投棄への対応

- ・ 郊外の街道沿いの農地にごみが不法投棄されるケースが見受けられる。ひどい例では、本来ごみステーションに持っていく袋や食品トレーなどが農地に投棄されることもある。
- ・ ごみの問題への対策は以前から変わっておらず、良心に任せるとか道徳に任せるのではなく、罰則を厳しくしていけないといけないと思う。
- ・ ごみ捨てのルール違反などの課題を市民の間で解決するのは難しい。仲介に市や警察の力を借りないとできない。

## 分野5：安心して暮らせるまちづくり

### <5-1 防災対策の推進>

#### □地域コミュニティによる防災対策

- ・ 地域コミュニティの活性化を図る1つの手段として、地域の防災活動を核として考えることがよい。
- ・ 日頃から近隣住民とのコミュニケーションが大切し、有事の際に近隣住民の状況を理解してお互い助け合う共助が必要である。避難所回覧板などで顔の見える地域づくりをしたらどうか。
- ・ 自ら身を守ることへの意識は校区によってばらつきがある。先進的な取り組みをしている校区の事例をPRして、防災への意識を啓発することが重要である。
- ・ これまで有事の際の訓練として、防災訓練は校区単位など大きな単位で取り組んできた。しかし有事の際は、町単位で避難所開設訓練（HUG）や災害図上訓練（DIG）が必要でなるため、避難訓練を町単位などより小さい単位で実施したほうがよい。
- ・ 防災ガイドブックの活用方法を講習会や小学校での出前講座で子どもに書き込ませて帰るようすればよい学習になる。
- ・ 地域の防災対策を継続的に考える人を地域の中で設ける必要があり、有事の際は、市役所をあてにせず、自分のことは自分で守る意識を高めていく必要がある。
- ・ 平日昼間に地域にいるのは男性よりも女性のほうが地域にいる可能性が高いことを考えれば、女性が地域防災にかかわることは必要なことと思う。

#### □災害時の情報伝達

- ・ 東日本大震災は聴覚障がいの人が逃げ遅れるケースがあった。障がい者や外国人など災害時における情報弱者へ情報を伝える仕組みが必要である。
- ・ 有事の際は、避難所には外国人の人も多く集まることが予想される。普段からコミュニケーションカードなどの準備しておくことが必要である。
- ・ 「ほっとメール配信」の紹介を広報とよはしに毎回リンクを掲載し、より多くの人に加入できるようPRするとよい。
- ・ 市外に住み、市内に通勤・通学する人に対して、ほっとメールに登録するよう告知した方がよい。そのために、携帯電話等を取り扱う情報通信会社などで、携帯端末を契約する際に、ほっとメールの周知を図ることや、企業や大学などでほっとメールの登録をお願いするなどが有効である。

#### □緊急輸送道路沿いに立地する建物の耐震化率向上

- ・ 5年後の将来像を考えると、緊急輸送道路沿いに立地する建物の耐震化率向上を期待したい。空家対策にも通じる。



## <5-2 消防・救急救命体制の整備>

### □消防士の技術や体制の強化

- ・ 市の消防士の数は適正な規模を下回るといわれている。継続的に市の消防・救急救命体制の維持や技術伝承をするためにはリーダーとして活動できる人材育成が必要である。
- ・ 愛知県で訓練できる場所が県内で1ヶ所であるため、東三河地域に設置したらどうか。

### □防災施設の点検

- ・ 火水槽に石が混じったことで、消火ポンプを使う際にポンプが破れる事案が発生している。定期的な点検が必要である。
- ・ 過去に市の文化財の付近に防火施設がなかったことで消火活動ができないことがあった。文化財の近くに防火水槽などに整備しておくことが必要ではないか。

## <5-3 治山・治水・侵食対策の充実>

### □柳生川など浸水被害対策

- ・ 柳生川や内張川などの貯水槽の整備などによる浸水対策に取り組むことは流域の浸水対策のために必要である。

## <5-4 暮らしの安全確保>

### □交通事故の加害者とならないための教育

- ・ 子どもが、自転車運転中の事故により加害者になってしまう可能性にも目を向けるべきである。PTAを含め、学校レベルで教育を深めていく必要があると思う。

### □地域の安全・安心を地域でつくる仕組みづくり

- ・ 地域住民が、世代を超えて地域の安全・安心へ関わり、みずからが考える意識をみんなで持ってもらう気づきがあるとよい。そのためには例えば、子どもを巻き込むことで、親子もしくは3世代で関われる仕掛けがいいのではないか。例えば、危険な地域について世代を超えて話し合うワークショップをすれば、子どもの視点、大人の視点など世代別の視点を共有でき、みんなで考える地域の安全マップができる。
- ・ 校区の安全・安心づくりのため、キックオフの段階でアイデアやノウハウを持った人材を派遣する仕組みがあるとよい。

### □危険ドラッグへの対応

- ・ 市内で危険ドラッグによる危険運転で事故が起きた事例があり身近な問題となっている。

### □まちなかでの喫煙の禁止

- ・ 豊橋駅の喫煙所には屋根がないため、雨が降るとペDESTリアンデッキの喫煙場所から喫煙者がバスの階段まで来て迷惑に感じる。喫煙者からお金を集めて屋根を設置してはどうか。

### < 5 - 5 生活衛生の確保 >

#### □緊急時の生活衛生に関する準備

- ・ 東日本大震災で遺体の埋葬が問題になったので、行政として災害が発生した時の時の対応を検討し備えておくことが必要である。
- ・ 口蹄疫や鳥インフルエンザなどの伝染病や畜舎の火災などが発生した時は、家畜の処分が必要になるので、あらかじめ対応を準備しておくことが必要である。

#### □処分される動物を減らす対応

- ・ 保護されたペットを次の飼い主につながる仕組みを、ペットショップや里親を探すボランティア団体と連携して検討することで殺処分されるペットは減ると考える。
- ・ 地域にいる犬や猫の去勢対策も必要である。

### < 5 - 6 食の安全確保 >

#### □食の安全に関する啓発

- ・ 食品表示法の改正により、材料表示の厳罰化が進んだ。食の安全に関する周知や啓発が求められている。
- ・ 有事の際に、非常食のアレルギー対応や食事を配膳する際のアレルギーへの認識が重要となっており、市民への周知が必要である。
- ・ 食物アレルギーのアナフィラキシーショック対応するための注射などを A E D と同じように市内に配置したらよい。

#### □食品に関する市独自の第三者認証

- ・ 食品に関する安全は第三者認証の担保がないと信用されない時代である。地域に HACCP 認定があると、地域の食品加工産業に競争力がつくと思う。豊橋市保健所などで HACCP の第三者認証を行ってもらえるよう検討してほしい。

## **分野 6 : 快適で利便性の高いまちづくり**

### **< 6 - 1 市街地の整備と景観の形成 >**

#### **□駅前空間の整備**

- ・ プラットと駅前大通りのアクセスやプラットから名豊ビルへのアクセス、またその周辺の景観の整備は必要である。
- ・ よりよい景観のために、まちなかに水際空間を作り、遊びの空間を創出したらよい。
- ・ 駅前空間を、ディズニーランドのようにごみがひとつも落ちていない空間、また来訪者とのコミュニケーションを大切にできる空間にしたらどうか。また、エリアごとにテーマ性を持たせてはどうか。
- ・ 市電の駅周辺に回遊性を持たせるために商業施設やオフィスが必要である。
- ・ 車を使うことが難しい高齢者の増加や車への興味がない若者の増加などにより公共交通機関は利用者数が相対的に増えはせずである。公共交通機関を利用してまちなかに来ると、中心市街地の店舗でポイント等が利用できるなど、公共交通機関の利用に対するインセンティブの検討が必要である。
- ・ 駅から駅に行くのに、階段を上り下りする必要がある大変である。

#### **□まちの集約化の推進**

- ・ 人口減少社会では、まちを集約化してネットワークでつなげることが必要。公共交通機関を活用して都市計画を進めるべき。
- ・ 市街地を自転車移動できるように自転車道の整備が必要である。

#### **□屋外広告物の規制の高度化**

- ・ 豊橋駅前にある看板や広告などの屋外広告物の規制を見直し、東三河地域の玄関口としての豊橋駅前の景観を改善することが必要ではないか。
- ・ 郊外の幹線道路に野立ての看板が多く見栄えが悪い。屋外広告物の規制改善が必要ではないか。

#### **□幹線道路の街路樹の充実**

- ・ 豊橋市を緑豊かなまちとするために、東三河環状線や国道 1 号線などの幹線道路の街路樹の充実を図ることが必要ではないか。
- ・ まちなかに街路樹など緑のうるおいが必要だと思う。豊橋公園前のくすのき通りのように並木がまちなかにあると面白い。

#### **□まちなかの電線地中化**

- ・ まちなかの広小路通りでは電線の地中化が行われているが、桜通りや松葉通り等の脇道までできていない。電線が消防活動の妨げになり得るため、地中化を進めるべき。

#### **□まちなか活性化の取り組み（再掲）**

□都市計画の考え方

- ・ 中心部と周辺部では特色が違うため一括りで議論するのは難しい。地域によってゾーン、エリアで考えるランドデザインを描き、その実現に向けて民間と行政の役割分担を行うのがよい。

□広小路通りにおける一時駐車帯の確保

- ・ 30年前に広小路通りの歩道を拡張したが、歩道を改修して短時間利用専用の無料のパーキングにできないだろうか。まちなかの商店街を利用するお客様の買い物する気を削ぐようなことがあってはならないと思う。

□ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

- ・ 誰もが快適で生活できるまちをめざして、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めるべきである。

<6-2 幹線道路網の整備>

□幹線道路の整備

- ・ 市街地の骨格が作りきれていないため東三河環状線の整備を進めてほしい。また幹線道路の右折レーンがないところがあり整備が必要だと感じる。
- ・ 東三河環状線の牛川トンネルができ、交差点の付替え工事により小学校の登下校のリスクが高くなったことが懸念である。

<6-3 生活道路の整備>

□自転車の交通安全に関する対策

- ・ 自転車のニーズが高まってくるのは構わないが、安全性を高める道路整備もそろそろ必要になってくるのではないか。
- ・ 自転車について積極的に講習会を開いた方がよい。豊橋市民として講習を受けたことを市として認定し、子供たちを中心に免許証のようなものを交付するなどはどうか。
- ・ 自転車が車両ということをしつかりと伝えていくために、悪質な運転には制服を着ている警察官が止める、赤切符のようなものを切るなどまで協力してもらおうと多少変わるかもしれない。
- ・ 横断歩道を斜めに設置することで事故を減らしたというニュースがあった。市の管理している道路でも、事故の原因を把握し、安全配慮のために対策講ずる必要がある。
- ・ サイクルアンドライドの推進も検討が必要である。

□郊外地域における公共交通機関の利用促進

- ・ バスでICカードが使えるようになると利便性が向上する。
- ・ 明海地区と渥美線を循環できるような鉄道を作れば、明海地区へ向かう渋滞が減る。
- ・ 明海地区の通勤車対策として、比較的近場の駅まで鉄道で行ってもらって、そこからバスでピストン移動してもらえないだろうか。
- ・ 結局は公共交通機関の空白地帯があるということ。公共交通機関がある場所まで出るくらいなら、車で直接移動した方が時間の短縮になってしまう。
- ・ 車の利用に依存すると、健康面や環境面でよくない。

<6-4 公共交通の充実>

□市電の利用促進

- ・ 市電は車に過度に頼らないまちづくりを進める上で重要な公共交通機関である。環境や健康、まちの活性化などの視点から市電の延伸化を含めたまちづくりを考えていくことが大切ではないか。
- ・ 市電に乗る理由と乗らない理由を分析するべき。市電は市民の一部しか関係しない。市電を活性化するのであれば、日頃沿線上にいる人が利用する仕組みが必要である。例えば利用者にまちなかの店で使えるポイントなどインセンティブを与えることが有効。
- ・ 高齢者や障がい者、子どもは車の運転ができないことを考えると公共交通は必要。
- ・ パークアンドライドの仕組みは一応あるが、各施設面の整備が不十分で駐輪スペースや駐車台数が少ない等の問題がある。
- ・ 高齢者にとって、市電の乗り降りの場所にほの国百貨店の目の前にあるととても便利。

□多様な乗り物が使えるまちづくり

- ・ 今後、乗り物の小型化と技術革新が進み、乗り物の多様化していくことが予想される。多様な乗り物が使えるまちづくりが必要。また水素ステーションなどのインフラの整備もこの地域には必要だろう。

□環境に優しい交通利用

- ・ パークアンドライドを推進するために、郊外の公共交通機関の駅に駐車場を設置し、中心市街地への自動車の乗り入れを制限するようになるとうい。

<6-5 住宅環境の整備>

□民間住宅の活用における居住環境の整備

- ・ 居住環境の整備としては、市営・公営住宅だけではなく民間住宅を含め検討を進めてほしい。例えば、高齢者向けに住宅の整備を工夫することは在宅介護の流れの中で重要なことである。

□空家の活用

- ・ 空家を強制的に撤去できるような仕組みがないと空家対策にならない。
- ・ ある程度持ち主が特定されているのであれば、空家を活用しやすいのではないか。
- ・ 空家の利活用は、建築基準法と消防法に引っかかり、大幅な改修が必要とされることがあり、費用や手間から躊躇することが考えられる。補助金や助成金などではなく、規制緩和に取り組むことが必要。障害福祉の分野では、愛知県が規制緩和したが、中核市は適用されていない。
- ・ 特定空家を解体する費用や更地後の固定資産税は不動産の持主負担となる。例えば更地後に土地を借上げ、防火水槽や防火帯を設置するなどして負担を軽減するようしたらどうか。
- ・ 自治会レベルで空家の状況や持ち主の状況について把握に努める必要がある。

＜ 6－6 水道水の安定供給＞

□水道の老朽化対策

- ・ 豊橋市は周辺地域と比べると上下水道の普及が非常に早かった。逆にいうと、そろそろ問題になってくる可能性がある。
- ・ 水道管の耐震もさることながら、肝心の処理施設そのものの耐震化も考えておくべき。

＜ 6－7 下水道の整備＞

□資源物の有効利用

- ・ 下水の中からレアメタルを取り出して、市の財政に還元してみてもどうか。

＜ 6－8 情報・通信環境の充実＞

□「広報とよはし」の配布方法

- ・ 「広報とよはし」は自治会に入っているところに配布されているため、自治会に加入していない集合住宅等には届いていない。
- ・ 「広報とよはし」をホームページで公開していても市民のすべてに届いているわけではなく、市の公共施設にあっても取りに行かなければいけない。
- ・ 「広報とよはし」を通して地域の情報を子育て世帯に伝達するのであれば、学校で配布するプリントの中に入れるという方法もある。

## <行政組織について>

### □市民団体による行政評価

- ・ 市の取組に関するPDCAを回し、その取組みをチェックする検討会の仕組みが総合計画に盛り込まれると良い。前回の提言のチェックがなかったことはそうした検討会がなかったからだと思う。

### □市役所の窓口ワンストップ化

- ・ 市役所に来たときに、たらい回しにされた話はよく聞く。市民としてどこの部署に行くか、相談すべき部署に行けるように理解しておく必要があるが、わからないこともあることから、まずは総合窓口で困ったことを相談し、どこに行けばいいか指示してくれるとよい。

### □新しいことをやる課

- ・ 新しい取組みを立ち上げる時に、新しいことをやる課のような部署が受け持ち、その後の運用段階で、所管課へ移管していくことが望ましい。

## <その他>

### □地域特性を重視したまちづくり

- ・ まちづくりの考え方として、市内一律に政策を実施するのではなく、モデルなど特区を設けて重点的に取組んでいくことが必要。豊橋市すべてを良くするという事は難しいのではないかと。地域には長所・短所がある、それを活かしたまちづくりが必要である。

### □地域から予算要求制度の新設

- ・ 地域が自立してまちづくりができるよう、地域（校区）への補助を一律にするのではなく、地域から必要な予算を要求する仕組みをつくったらどうか。予算要求しなければ補助しないなどの仕組みがあるとよい。より効果的に進めるために、行政が地域を指導し、議会は実施内容を検証し、進捗状況が悪いものは中止するなどすることがよい。

### □子どもを通した大人の啓発

- ・ 親に対して啓発しようと思っても直接行える機会がなく難しい。子どもを通じて家族内で話し合う機会を設け、親子相互で確認し合う仕組みがあると効果があると思う。
- ・ 大人を地域の取組みに関わるためには、子どもを巻き込んだ取組みが有効である。子どもを通じて親が地域に関われる仕組みがあるとよい。
- ・ 子どもが規律を守ると親も規律を守るようになると思う。盆踊りひとつとっても、子どもが一生懸命やれば親も自然とそうなる。

□まちのあこがれをつくる

- ・ 豊橋が「憧れ」を持たれるようなまちになるためには、地産地消の話や本格的なマルシェを作るといったことが当てはまるのかもしれない。

□インターネットを通じた意見集約

- ・ インターネットを通じて、市外の人たちが豊橋市について意見を言ってもらえるような仕組みがあるとよい。豊橋市以外をみたからこそ、よいと気づくことがあるはずである。
- ・ 若者はこれから人口構成比が低くなっていくため、意見が反映されにくい。そのような状況を踏まえ、どの世代の声を拾っていく仕組みが必要だ。

□公共施設の保全

- ・ 過去に設置された公共施設は、現在の利用の仕方と違っているものがある。改修などする際に利用する人に合わせた施設にすること。東三河地域全体で考えるべきだ。